

# 元気な村づくり ～人が元気、地域が元気、経済が元気～

熊本県 水俣市 みなまたし



村丸ごと生活博物館の生活学芸員（村の暮らしの案内人）。  
“ここは全部おまかせの観光ではなく、あなた次第の「生活の博物館」。今日もあなたに元気を届けます”



生活学芸員が、海外からの訪問者に、先人から受け継いだ石積みいしづみの知恵や技について案内している。【「村めぐり」の様子】



生活学芸員が、地名の由来となった石（頭石）を案内しているところ。【「村めぐり」の様子】

## 事例の概要

● 水俣市では、地域住民が主体となった活動を推進するために、平成13年度に「元気村づくり条例」を制定した。そして、条例に基づき、「村丸ごと生活博物館」の指定を行っている。村丸ごと生活博物館とは、集落全体を「生活の博物館」と見立て、訪れる人々に対し、歴史的遺産といった珍しいものではなく、村人自身が当り前の普通の生活を訪問者に案内することで地域と村人を元気にしていく仕組みである。生活博物館には、市から認定された「生活学芸員」が村の案内を、「生活職人」がものづくりなどの体験を担当している。

● 最初に「村丸ごと生活博物館」の指定を受けた水俣川の源流に位置する頭石（かぐめいし）集落は、山間の小さな地域外との交流がほとんどない集落であったが、生活博物館の指定を受けてからは、水俣で最も人が集まる地区になっている。そして、他の地区にも活動が広がり現在では4つの地区が指定を受け、これまでに全国各地や海外から5000人以上の人々が訪れている。なお、現在、指定されている4地区は、頭石地区（平成14年）、久木野地区（平成17年）、大川地区（平成17年）、越小場地区（平成19年）である。

## 評価のポイント

水俣市は、平成17年度に「水俣市元気村づくり条例」に基づく「村丸ごと生活博物館」として指定した久木野地区にある「水俣市久木野地域振興会」の活動が、過疎地域自立活性化優良事例総務大臣表彰を受けており、現在では市内の4地区が「村丸ごと生活博物館」として指定されている。

「村丸ごと生活博物館」は集落全体を「生活の博物館」と見立て、訪れる人々に対し、歴史的遺産といった珍しいものではなく、地域住民自身が当り前と思っている普通の生活を訪問者に案内することで地域と住民を元気にしていく仕組みである。生活博物館には、市から認定された「生活学芸員」が村の案内を、「生活職人」がものづくり体験などを担当している。

これらの活動を踏まえ、地域の人々は、荒れていた畑に再び野菜をつくり、村の食材を使った食事の提供を行い、その結果、遊休地や耕作放棄地は少なくなり、地域の景観も昔の姿を取り戻しはじめるようになっている。

「生活学芸員」が地域の暮らしを見せ、伝え、交流する活動はきわめて例が無く、無理なく持続的で、かつ、自らの暮らしを高める活動である、また、地域の風土、歴史、生活文化など地域にあるものを「地域の宝」として最大限に生かす地域住民の取組みは先進的なものである。本事例においては、このような点が評価された。



生活職人（生活技術の熟練者）が、ワラを使った足半（あしなか）づくりを訪問者に提供している。【「技めぐり」の様子】



昼食メニューの一例。“家庭料理とは、3食×365日×50年＝54,750食という村の暮らしの宝箱”、その土地の風景とそこに生きた人々の知恵が詰まった食を提供する。【「食めぐり」の様子】

## 熊本県 水俣市（みなまたし）



### 国勢調査人口 （単位：人）

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
48,342	38,109	32,842	31,147	29,210

### 人口増減率 （単位：％） 高齢者・若齢者比率（17年）（単位：％）

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	29.8	若年者比率	11.2
△39.6	△23.4	△5.2	△6.2				

### 交通のご案内

自動車 南九州西回り自動車道芦北I・Cから  
国道3号線で約30分  
鉄道 熊本駅から特急及び九州新幹線利用で  
約36分  
飛行機 鹿児島空港から車で約90分

### 団体連絡先

水俣市産業建設部産業づくり総室  
農林水産振興室元気村推進係  
〒867-8555  
熊本県水俣市陣内1丁目1番1号  
TEL. 0966-61-1652  
FAX. 0966-62-0611  
<http://www.minamatacity.jp/>